

発行:一般財団法人 重い病気を持つ子どもと家族を支える財団 (キッズファム財団)

Foundation for Severely Ill Children and Their Families



ご挨拶

熊の出没が大きな社会問題になっています。生まれ育った東北地方ではツキノワグマ、関わっている「そらぶちキッズキャンプ」(難病の子どもたちとその家族のための医療ケア付きのキャンプ場) がある北海道ではヒグマが今やニュースの主役になっています。今朝も岩手県の酪農家の牛小屋に親子の熊が二組で牛の餌を横取りしに来て困っているとのニュースがありました。熊は群れで行動しない動物なのにめずらしいことだなと思つて聞きました。

人類の歴史の中で私たちホモ・サピエンスとネアンデルタール人が共存していた、今から三万年ほど前の話を友人から聞いた

一般財団法人 重い病気を持つ子どもと家族を支える財団
代表理事 細谷 亮太

たことがあります。両者の比較のなかで決定的だったのは群れを作る能力の優劣だったように記憶しています。何百、何千人の群れを作ることができたホモ・サピエンスは今や地球上に七十八億人も存在し、かたや血縁でつながったせいぜい数十人の群れで暮らしていたネアンデルタール人は私たちの遺伝子の中にはほんの少しの痕跡を残して絶滅してしまいました。

群れで暮らしている私たちホモ・サピエンスは、愚かにも、時々、大きな争いをすることがあります。しかしながら、その一方で苦しむ人がいれば誰かが手を差し伸べができる存在であることも確かです。それを忘れないでいたいと思います。

☆財団の主な活動のご紹介

■英國大使公邸でのハクルート社レセプションに出展しました

10月4日(水)、ハクルート社東京オフィスの開設10周年を記念して、在日英國大使館大使公邸において、日英のビジネスリーダーを招待してのレセプションが開催されました。ハクルート社は、英國のコンサルティング会社で、本社はロ

ンドンにあり世界中に支店があります。

キッズファム財団は本年6月よりハクルート社のパートナー団体として、理事にアンドリュー・ティエナン

氏が就任し、交流を深め新たな活動を行ってきました。今回のレセプションには細谷代表理事と二人の業務執行理事も参加させていただきました。

今回、レセプション会場となった大使公邸は皇居のお堀に面した歴史ある建物で、中にはエリザベス女王の肖像画や歴代大使の写真が飾られていました。そのホール入り口近くにキッズファム財団の紹介コーナーを出展させていただき、来場された150人近くの日英のビジネスリーダーやハクルート関係者、また大使館関係者に財団の活動内容を知っていただきました。

また英国より来日されていた財団創設者、喜谷昌代のご家族も招待されて皆さんと懇談され



ていました。

財団の紹介コーナーには、ファミリーフォトで撮影したご家族の写真パネルを中心に、キッズファム通信やリーフレットなどを置いて、立ち寄っていただいた日本を代表するビジネスリーダーの皆さま方に細谷代表理事自ら財団の活動をご案内するとともに、関心を持っていただきました。

このような貴重な機会をつくっていただいたハクルート社に感謝するとともに、今後もいろいろなイベントで重い病気を持つ子どもと家族のことを知つていただくための啓発活動を拡げていきたいと思います。



■駐日英國大使「もみじの家」ご訪問

9月11日(月)、駐日英國大使のジュリア・ロングボトム氏(写真中央)が世田谷区にある国立成育医療研究センター内の「もみじの家」をご主人と共に訪問されました。



「もみじの家」は英國オックスフォードにある「ヘレンハウス」がモデルとなり、2016年4月に開設した医療的ケア児とその家族がゆったりとした時間を過ごすことができる施設です。

今回の訪問は財団の新理事アンドリュー・ティエナン氏の働きかけによるもので、国立成育医療研究センターの笠原病院長や北澤戦略室長がお迎えし、もみじの家の内多ハウスマネージャーが案内されました。大使は初めて訪問した「もみじの家」の広々とした明るい空間と日本風のお風呂などの充実した施設に感嘆していました。最初は英語でご案内しましたが、途中からは流暢な日本語で質問されました。今回で3回目の日本駐在とのことです。

視察後、こういった施設がさらに多くの場所にできることを願っていますとコメントされました。またファミリーフォトやコンサートなどのキッズファム財団の活動にも興味を持っていただきました。

■写真展「“いのち”輝く～ファミリーフォトプロジェクト～」

写真展では、当財団のファミリーフォトプロジェクトで撮影した家族写真を展示しています。写真を通して重い病気を持つ子どもと家族のことを知っていただき、それぞれの立場で、感じたり、考えたり・・・していただけることを願っています。開催にあたり快く展示許可をくださったご家族、ご来場、ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

■世田谷美術館区民ギャラリー

10月24～29日に実施、今回で4回目となります。写真パネル34点とご家族からいただいたメッセージ、財団の活動紹介ポスター等を展示しました。

期間中は好天に恵まれ、289名の方にご来場いただきました。写真に写っているご家族が来場され、とても喜んでくださったこと、重い病気をもつ子ども達にかかわっていらっしゃる方、こういう写真を初めて見るという方、たまたま立ち寄って下さった方、思いがけない再会など、素敵なお会いがたくさんありました6日間でした。



いただいたご意見・ご感想の一部を紹介いたします。

▶今日は時間があったので、美術館に“フラット”入って、こちらの部屋で多くの写真を見せていただきました。人の出会いはとても大事な時を過ごせますね。（80歳代女性）

▶どのお子さんも、内側からいのちと喜びがあふれていて、ただ、それだけで、私にも喜びを与えてくれました。ご

家族や友人、ケアの方々の愛が注がれているからだと心から思いました。感謝します。（60歳代女性）

▶温かな笑顔と伝わってくる家族の絆とで、見る者的心まで優しくさせてくれる写真ばかりでした。又、会いに来ます。（60歳代女性）

▶世田谷美術館で、このような写真展を見たのは初めてでした。新鮮な気持ちで、いろいろな表情を見られたと思います。今後もますます写真展を開かれることを願っております。こうした写真は素晴らしい!! と思います。（60歳代男性）



■NHK放送技術研究所 «技研ギャラリー»

7月3～26日、世田谷区砧にあるNHK放送技術研究所1階、「技研ギャラリー」で実施しました。今回で4回目となります。なかなか一般の方が入ることのないスペースですので、来場者数は決して多くはありません。NHK放送技術研究所に用事があり訪問された方や写真展を知っているご近所の方等にご覧いただいています。

「いつも心暖まる写真展をありがとうございます。」「とても癒されました。」「買い物の帰りに急に思ひたって寄らせていただきました。」「私も当事者家族ですが、この様な活動を通して医療的ケア児たちのことが広く知られる嬉しいです。」などの感想・意見をいただきました。

また、全国ケーブルテレビ新人アナウンサー研修「1分間レポート訓練」用の教材として使用していただきました。どんなレポートをしてくださったのか、知りたいところです。



■NPO法人日本子守歌協会主催 ファミリーコンサート

8月13日、市川市文化会館で行われた、NPO法人日本子守歌協会「ファミリーコンサートin市川スミセイキッズファーラム～親子の絆の子守唄～」の会場ロビーをお借りして写真展を行いました。NPO法人日本子守歌協会は、唄やおはなし・伝承の文化を通して、母親たちの子育てを支援する活動を行っています。

最後に主催者の西館好子様より当財団を紹介していただき、「すごくいい写真だから絶対に見ていってね。」というあたたかい言葉があり、多くのご家族が写真を熱心にご覧下さいました。



■新宿区立子ども総合センター“ここ・からまつり”

11月12日、第10回“ここ・からまつり”的際、新宿区立子ども総合センター3階の廊下壁面に写真を展示しました。4年ぶり、3回目の展示です。あいにく冷たい雨で始まる一日でしたが、おまつりが始まる時刻には雨も上がり、たくさんの方が来場されました。

小さなお子さんに丁寧に説明をしながら見てくださるお母様、「この写真が見たくて来ました」と言ってくださる方、コメントを読み涙される方、熱心に質問をしてくださる方もいらっしゃいました。



■チャリティライブ

■第27回 6月

認定NPO法人朴の会「音楽とどけ隊」の田尻かをりさん（ヴァイオリン）、覓千佳子さん（ピアノ）、大塚雅仁さん（うた）、袴田容さん（チェロ）による演奏で、当財団代表

理事の細谷亮太医師もモデレーターとして参加しました。

「歌はともだち」からスタートして「アイスクリームの歌」「夏の思い出」「美女と野獣」「さんぽ」「にじ」

の夏らしい曲に加えて、ヴァイオリンとピアノによる「ガブリエルのオーボエ」、チェロとピアノによる「見上げてごらん夜の星を」の素敵な演奏もありました。

第2回ミュージック・ジャンクションもおこないました。「NPO法人 あいけあ」「重症心身障害児療育相談センターあけぼの学園」「遊びリパークリノア たまプラ」「遊びリパークリノア 茅ヶ崎」「特定非営利活動法人 Ohana kids」「一般社団法人はぴなす こどもディういす」「みくりキッズくりにくく」の皆さんに参加してくれました。他施設との交流のみならず、同施設内でも普段会えない子どもたちが動画の中で一緒に演奏できてよかったですとの感想もあり、音楽を通じて交流する場を設けられたことを嬉しく思います。

■第28回 8月

アイドルの葉月あすかさんと皆木まこさんが「ハッピー・ジャムジャム」「セーラースターソング」「YUME日和」

■もみじの家でのファミリーフォト・プロジェクト 再開しました



コロナウイルス感染症のため2020年4月から休止していた、もみじの家の撮影が、9月から再開されました。撮影場所にはまだ制限がありますが、「滞在中に撮影したい」という希望をいたいでいたので、まずはステップを踏み出したというところでしょうか？

記念すべき再開後第1回の撮影は、9月20日に仲良し2家族のコラボという、初めての形で行われました。カメラマンはおなじみの安田さん。2家族ともお互い顔なじみ、リラックスした雰囲気で撮影は順調に進みました。ちょうど通りかかった内多ハウスマネージャーもご家族に誘われて一緒にカメラに収まってくれました。子ども二人、各家族、2家族一緒に加えて、お子さん一人バージョンでは、本職のモデルさんさながらにいろいろなかわいいポーズをとってくれ、バラエティに富んだ撮影となりました。これからもみじの家を利用される皆さんもぜひご参加ください。



「新時代」「1・2・3」などのアニメソングを歌ってくれました。

ライブ出演にあたり、子ども達のことや当財団の活動について知ってください、ライブ当日にはとても温かいメッセージをたくさん発信してくれ

ました。「彼女達の可愛くて元気な歌と踊りから、私も元気をもらいました！癒されました！」という感想が多く寄せられました。

■第29回 10月

イベントパフォーマー・紙芝居師の梅ちゃんによるパフォーマンスでした。オリジナル紙芝居に生の芝居を織り交ぜた、飛び出す紙芝居。南京玉すだれや、皿回し、ワイズ



など盛りだくさんの参加型バラエティコメディショーでした。

今回は放課後等ディサービスの「遊びリパークリノアたまプラ」にお邪魔しました。ようやくコロナが落ちついてきて、お子さんやスタッフさん達にリアルでパフォーマンスをお楽しみいただけたことを非常に嬉しく思います。

チャリティライブはYouTubeで無料配信しています。



■成育の“夏祭り”に参加しました

8月5日（土）、国立成育医療研究センター中庭で“夏祭り”が行われました。4年ぶりの開催です。櫓、紅白幕、提灯、東京音頭、出店と、お祭り気分満載です。



財団は、ご寄付いただいた文房具やおもちゃ、台所用品などを格安販売するバザーを出店しました。

「すごく安い！」とまとめ買いしてくださる方、にこれかわいい～と喜んでくださる方、私たちもお客様と一緒に真剣に品定め、暑さも忘れる、楽しいひとときでした。

財団について質問してくださる方もいて、「買い物することでお役に立てれば。」

「頑張ってくださいね。」とあたたかい言葉もいただきました。

売上収益は財団活動のために大切に使用させていただきます。

皆様、ありがとうございました。



■全国医療的ケアライン第2回全国フォーラムに協賛しました

11月3日(祝)、医療的ケアが必要な本人と家族・支援者をつなぐネットワーク「全国医療的ケアライン」の第2回全国フォーラムが東京都千代田区の東京国際フォーラムで開催されました。

全国から医療的ケアが必要な本人と家族、支援者をはじめ、国会議員や省庁関係者の方々が参加しました。また、ロビーではご家族の写真撮影や企業によるブース展示が行われました。キッズファム財団はこのイベントに協賛とともに、事務局メンバーが会場の受付としてボランティア参加



いたしました。

- ・14時～<第1部>「サークル活動報告」(学校/防災/短期入所)
- ・15時～<第2部>医療的ケア児本人が伝える「私が今大切にしたいこと」

今年も野田聖子衆議院議員、山本博司参議院議員、省庁関係者を交えて医療的ケアをめぐる社会的課題について意見交換し、その模様はYouTubeでライブ配信されました。

全国医療的ケアライン（通称アイライン）は、全国各地の医療的ケアが必要な当事者や家族、支援者を一つにつなぐネットワークとして2022年3月に誕生しました。医療的ケアに関わる家族会が都道府県単位に会員登録する、全国初の団体です。重い病気や障がいがあっても、安心して住み慣れた地域で暮らし続けられる社会作りのため、政策提言や啓発イベント開催などの活動を行っています。



ご家族からのお便り 「もみじの家と共に」

落合 純子様（恭子ちゃん）



娘の恭子は、もみじの家の開所と同じ2016年生まれの7歳です。もみじの家で恭子は一歳を迎えました。誕生日当日はダイニングでチェロとバイオリンのコンサートがあり、生演奏の音色に浸っていたら、サプライズでハッピーバースデーの曲を演奏していただき、お誕生日をお祝いしていただきました。

拍手でお祝いをしていただきながら、生後すぐに、1歳

にはなれない子だよと先生に言われたこと、NICUを退院してもすぐに入院になり、産後の体で無理をしながら付き添いしたこと、自宅に帰っても目が離せず、トイレもままならなかったこと、深夜に救急外来に駆け込み、朝を迎えたこと、、これまでのことが頭を駆け巡り、無事に1歳を迎えたこと、そしてみなさんにお祝いしてもらえたことがとても嬉しかったです。

この頃は、もみじの家に親子で宿泊して、母は非日常を感じて気分転換ができ、朝までしっかり眠り、食事は座ってゆっくり味わい、時には財団ボランティアの方のカフェで、ゆ

っくりお茶をしながらお話することができました。家では氣を張りながら生活していたので、もみじの家ではリラックスして過ごせました。

コロナ禍で定期的な利用が中断ましたが、利用再開時には久しぶり！大きくなったね！と笑顔で迎えられたり、病棟でお世話になった看護師さんと再会できたり、成長を喜んでもらえました。もみじの家があつて良かったなと思いました。

最近は憧れだった「お友達と一緒に泊まり」をしています。恭子を預けてお友達のママさんと気兼ねなくおしゃべりを楽しんでいます。

いつも利用者家族に寄り添つて、それぞれに必要な時間、楽しい時間を作ってくれる、もみじの家と財団に感謝しています。これからも、もみじの家と共に年を重ねていきます。



財団の細谷代表理事と一緒に



英國だより（11）

今年の英国の夏は日本とは大違いで寒い夏で終わってしまいました。既に11月に入り今年もクリスマスが近くまでやって来ています。

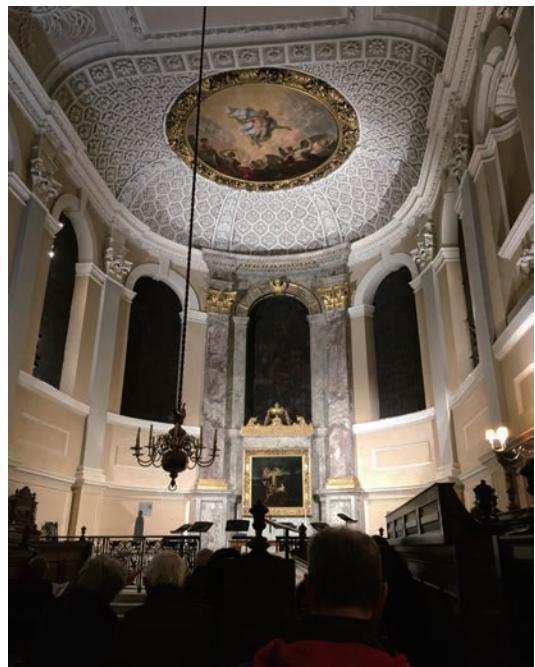
我々英國に或は欧州に滞在している日本人の日常生活にとって、大きな出来事が起こりました。インターネットがまだない時代から今まで30年以上に渡って続いてきた日本語のTV放送が10月末をもって終わってしまったのです。ロンドンに本社を置き、NHKと民放の番組を欧州一帯に放映していたNHKコスモメディアヨーロッパが運営するJSTVでした。

30年以上も親しまれてきましたが、インターネットの急速な普及が環境をがらりと変え、2000年代半ばのピーク時に比して、契約者数は半数以下に減ってしまったのが、会社解散の理由です。小学生を含め大方の日本人はこれから、如何なる方法で日本語TVを視聴しようかと迷っています。



JSTVの番組ガイド最終号

毎年の事ですが11月末からクリスマスにかけて毎週2,3回声を掛けられるのがコンサートへの招待です。孫の大学の合唱団、街の合唱グループ、ワインザー城礼拝堂合唱団等々様々ですが、お付き合いいで出



オックスフォードQueens Collegeのチャペルかける機会が増えます。曲目もヘンデルのメサイア、クリスマスキヤロルなどです。こうしてクリスマスの雰囲気を味わいつつ年を越して新年を迎える事に成ります。

皆様もどうぞ希望にあふれ、平和な新年をお迎えください。

■昌代さんと私　－第1回－

前号までの「History of KIDANI」に代わり、今号より財団創設者の喜谷昌代との出会い・思い出を語っていくコーナーを新設しました。今回は大阪市立総合医療センター医師の岡崎伸さんです。

『大きく澄んだ目で見つめられるといつも、背筋がピンとなり特別な集中力が生じました。見返すとあなたの瞳の中心にはいつも、私が映っていました。私の言葉を、大きくうなずきながら聞いて下さり、時折無邪気に笑われ、帰り道のわたしは自信と意欲で満ちていました。のちにそれは会釈と言って、「わたしは今この瞬間、あなただけのことを思っている」意思を示す行為だと知りました。』

昌代さんと初めてお会いしたのは2008年の秋、昌代さんの好きなお豆腐料理屋さんでした。私は当時37歳、医療に一意専心し、誰よりも研鑽を積んでいたつもりでした。2009年の「Momiji Project」での来日や、英国に伺い昌代さんの活動にふれる中で、医療が支援できるのは半分で、あそびなど慈善活動での支援も必要だと感じました。帰国後友人に話すと、あっという間に同志が集まり、英国にならったあそびの訪問や、あそびのイベントを始めました。いまもその活動は続けています。

『あなたは、大阪のイベントに来てください、子どもと家族の楽しそうな様子を、笑顔でずっと見つめられていました。

大阪市立総合医療センター　医師　岡崎伸

そしてひとこと「素敵ね」とつぶやかれました。活動は小さなものでしたが、私はあなたに教わったことができているのではないかと思い、涙をこらえるのが必至でした。わたしは、なんとか「光榮です」と小さな声を出しました。するとあなたはすぐに「私もよ」と答えて下さいました。私には涙をこらえるのは無理でした。』

追悼ミサでは、昌代さんがたくさんの種を撒かれた方だと言われていました。他の方から見るとどうかはわからないけれど、私はその種の一粒だと思います。重い病気や障害がある子どもと家族とともに、楽しく充実した時間を作り続けていきます。



nanacaraラジオのスタジオにて

■このような形のご寄付をいただきました

■ジュエリー作家 田中フィリップあさと様

シドニー在住で脳性麻痺のあるお子さんのお父様である田中様が、5月に銀座のACギャラリーにて行われた展示会での売上金の全額をご寄付くださいました。息子さんと一緒に作られた作品は完売だったそうです。田中様からの「制作コンセプト」と「意図」をご紹介します。

「制作コンセプト」：いつか息子と一緒に作品作りを夢見て・・でも、どうやって一緒に作れるんだろう。脳性麻痺である彼がデザイン描けるわけでもないし、切ったり、削ったり、口ウ付けできるわけでもないので。そこで、ふといつも公園で一緒に遊んでいた時に彼が何気なく“選んだ”地面に落ちている木を素材に僕が作る。“あっ、これでいいんだ”と。

「意図」：僕は10年前に脳性麻痺の息子を連れ、シドニーに戻りました。そこで銘銘を受けたのがオーストラリアの“障害者本人のみならずその周りの家族を支援する必要性”という概念。実は日本でもこのような概念で活動されている団体があります。それがキッズファム財団です。今回のカトラリーの売上げはこのキッズファム財団に寄付をし、“もみじの家”的な施設がもっと増え、思いやりに満ちた、より豊かな社会になるよう願いを込めて、息子とカトラリー作りに励みました。



ご寄付いただいた方々ご支援有難うございます

(2023.4.1 ~ 2023.9.30)

敬称略

秋前 里依菜 / 芦澤 昌子 / 東 桂子 / 安西 恵美子 / 安藤 和代 / 井伊 知美 / 飯泉 希世子 / 池上 典子 / 池永 豊子 / 石井 由美子 / 石岡 泰子 / 石田 篤子 / 石橋 広隆 / 五十子 敬子 / 伊東 洋子 / 伊東 ふじ子 / 稲井 真貴子 / 稲垣 いく子 / 井上 元子 / 岩佐 敏子 / 岩田 啓子 / 岩間 陽一郎・有喜子 / 植田 宣子 / 上田 照子 / 上野 博・悦子 / 宇川 俊和 / 梅木 孝治 / 宇山 真紀子 / 櫻本 さわ子 / 江端 貴子 / 大川 周二 / 太田 由加里 / 大野 隆史 / 岡田 那美枝 / 岡部 和子 / 小澤 英子 / 小田 康之 / 小野 登美子 / 加我 牧子 / 片山 成美 / 片山 ます江 / 勝川 恵子 / 加藤 祈世子 / 金澤 開作・記美恵 / 金子 立 / 金田 永子 / 蒲谷 ひろみ / 鎌田 千津子 / 上村 恵一 / 亀山 厚也 / 亀山 聰子 / 川勝 美樹 / 川口 雅嗣 / 川西 明子 / 菅野 哲介 / 岸井 淳子 / 岸本 晃子 / 喜谷 喜夫 / 工藤 悅子 / 工藤 加寿子 / 工藤 隆司 / 熊谷 一夫・澄子 / 倉田 潔 / 栗原 義和 / 栗原 喜久子 / 栗原 幹雄 / 五嶋 くみ子 / 小谷 ゆう子・ゆみ子 / 狐塚 七重 / 小林 京子 / 小林 智美 / 小峰 万木子 / 小宮山 雅子 / 西塔 雅彦 / 桜井 清文 / 佐々木 葉子 / 笹嶋 真理子 / 猿渡 美樹 / 澤村 明子 / しばた ゆか / 島谷 美成・恵以子 / 白木 登美子 / 新藤 由喜子 / 須崎 ゆかり / 鈴木 洋之 / 鈴木 牧子 / 鈴木 祐子 / 鈴木 佑子 / 高島 佐代子 / 高頭 伸枝 / 高梨 紗代 / 高橋 里江 / 高山 香奈江 / 田川 元子 / 田口 秀子 / 田代 洋子 / 田添 敦孝 / 田中 吾左人 / 田中 かおり / 玉井 祥子 / 土田 和子 / 寺井 勝 / 寺田 晴子 /

■横浜マラソン走って、ファンドレイジング

10月29日(日)に横浜マラソンが開催され、当財団理事のアンドリュー・ティエナン氏がキッズファム財団のためにフルマラソンを走りました。欧米ではこういったスポーツなどをテーマに各種団体へのファンドレイジングを個人から集めるのが日常となっています。

今回は「GoFund Me」というサイトに目標額(£ 10,000)を掲げて、SNSを中心にアピールし、英国在住の方々及び日本の方々から多くの寄付を集めて目標を達成しました。コースは、横浜ランドマークタワーをスタートし、根岸、磯子、南部市場で折り返し横浜パシフィコ臨港パークをゴールとした42.195km、しかも3時間で切る素晴らしいタイムでフィニッシュしました。

ティエナン氏は今回のようなファンドレイジングが日本でも増えていくことを願っているとのことでした。



土居 和子 / 長島 日出男 / 中田 俊行 / 中谷 桂子 / 中野 喜久子・由美子 / 中野 弘子 / 西川 博子 / 沼田 真由美 / 原田 純子 / 平田 恭信 / 福井 峰子 / 福神 規子 / 藤井 克徳 / 藤枝 幹也 / 藤田 学 / 藤本 篤子 / 古澤 育恵 / 堀内 静夫 / 堀江 ひろ子 / 前田 浩利 / 牧野 みどり / 増田 美鶴 / 松尾 三枝子 / 松坂 ヒロシ / 丸山 栄子 / 三浦 正充 / 水野 正望 / 宮武 倭子 / 村井 やよい / 村上 紀子 / 村木 厚子 / 村田 久美子 / 森部 加奈子 / 守家 李衣 / 森山 誠二 / 安井 純一郎 / 山内 敏樹 / 山川 好子 / 山田 史郎 / 山根 由香 / 山羽 啓子 / 山本 尚子 / 吉田 三恵子 / 吉永 映子 / 渡辺 泰子 / 匿名 17名
イニシャル10名 JW/KA/KF/KJ/KK/MS/NN/SS/ST/YS
【お宝エイド】
阿部千恵子 / 飯泉希世子 / 加我牧子 / 小坂泉 / 栃谷健太郎

ご寄付いただいた企業・団体

天野エンザイム株式会社 / 医療法人社団 のびた / 株式会社富士医科精器 / 株式会社八神製作所 / コーユーレンティア株式会社 / 宗教法人 成勝寺 / 首都開発株式会社 / 高崎健康福祉大学 / 東京アーバンコンサルティング株式会社

*募金箱の設置については、多くの企業・団体様にご協力いただいている。設置箇所についてはウェブサイトをご覧ください。

*各種イベントに募金箱を置かせてもらっています。



会員募集と ご寄付のお願い

- ★ 財団の活動は、皆様からの毎年のご寄付（年会費）によって賄われております。
- ★ 皆様からのご支援で、一人でも多くの「重い病気を持つ子どもたちと家族」を支えてください。
- ★ 会員の方には、継続的に財団通信をお送りするほか講演会等イベントのご案内を差し上げます。
- ★ 財団通信にて、お名前・団体名を開示させていただきます。匿名およびイニシャルをご希望の方はお手数ですが、財団事務局までメールまたはお電話にてご連絡ください。

◆ 年会費（4月1日から翌年3月31日）

- | | | |
|-----------|----|----------|
| ① 法人会員 | 1口 | 100,000円 |
| ② パートナー会員 | 1口 | 10,000円 |
| ③ サポーター会員 | 1口 | 3,000円 |

※1口から何口でもお受けいたします。

◆ ご寄付

金額の多寡にかかわらず、ありがとうございます。
ご支援をぜひお寄せください。

口座名義

一般財団法人

重い病気を持つ子どもと家族を支える財団

1. 郵便振替

00140-0-420461

2. 三菱UFJ銀行 成城支店

普通 0233800

3. クレジット決済 (QRコード)

★ 三菱UFJ銀行に初めてご送金いただいた方は、
メールまたは電話でご氏名とご住所をご連絡願います。



ーお知らせー



★1月27日(土)、東京都世田谷区の大蔵第二運動場体育館にて「きらきらキッズフェスタ」を開催します。親子で楽しい時間が過ごせる音楽中心のイベントです。詳細は財団のウェブサイトなどでご案内いたします。

★Tポイント募金にご協力をお願いします。Tポイントカードをお持ちでしたら、ポイントをキッズファム財団に募金いただくことが可能です。下記のウェブサイトからお手続きいただけます。

<https://tsite.jp/donation/>



一般財団法人 重い病気を持つ子どもと家族を支える財団 (キッズファム財団)

〒157-8535

東京都世田谷区大蔵2-10-1
国立成育医療研究センター内

Foundation for Severely Ill Children and Their Families

TEL 03-5494-1230 Eメール zaidan@kidsfam.or.jp

URL : <https://kidsfam.or.jp> 「キッズファム財団」で検索ください

おかげさまで… みなさまに愛される 街角の募金箱 ～成育ロビー写真展～

2017年8月より、国立成育医療研究センター玄関ロビーに「写真展～キッズファム財団ファミリーフォトプロジェクト～」を展示しています。受診や面会等で来院される方、職員の皆様にご覧いただいていますが、「勇気をもらった」「思わず涙がでた」「私も撮ってほしい」など、写真に対する感想やメッセージとともに、傍らに置かれた募金箱に募金をしていただいているます。現在までの募金総額は693,487円です。心よりお礼申し上げます。

これからも、素敵な家族写真を展示してまいります。ご来院の際は、どうぞご覧ください。



編集後記

キッズファム通信No.14をお届けします。コロナ禍の収束と共に対面でのイベントが戻ってきました。ご家族とふれあう場があるというこの喜びを感じています。

またパートナー企業の協力もあって、英国に関連する活動も増えてきました。いろいろな方に重い病気を持つ子どもとご家族のことを知っていただく機会になっています。詳しくは本文を参照ください。

今回の表紙は、ロンドンの中心部にある「サマセットハウス」で毎年冬に開かれるスケートリンクをテーマに描いてみました。雰囲気を味わっていただけたら幸いです。（大川）